

第5回 Clinical & Basic Research Forum

日時:平成27年7月4日(土) 17:00~19:00

会場:ホテル ザ マンハッタン 2階 「ルーナ」

千葉県千葉市美浜区ひび野2-10-1 TEL:043-275-1111

PROGRAM

* 会終了後、情報交換会をご用意しております

メーカーセッション

「 糖尿病診療における新たな薬物治療の可能性 」

千葉大学大学院医学研究院 細胞治療内科学 助教 前澤 善朗 先生

症例報告

「 大量心嚢水貯留を来した慢性活動性EBウイルス感染症に対して同種末梢血幹細胞移植を行った1例 」

千葉大学医学附属病院 血液内科 中尾 三四郎 先生

研究報告

「 DPP4阻害薬とGLP1受容体作動薬の膵島への効果の違い ~形態と機能の観点から~ 」

千葉大学大学院医学研究院 代謝生理学 講師 向 英里 先生

特別講演

座長 : 千葉大学大学院医学研究院 細胞治療内科学 教授 横手 幸太郎 先生

『 ベッドサイドからのイノベーション:

病因解明・診断法開発、そして創薬へ 』

鹿児島大学大学院医歯学総合研究科システム血栓制御学

特任教授 丸山 征郎 先生

【丸山 征郎 先生 ご略歴・ご紹介文】

鹿児島大学卒業。1年間外の医療機関で研修の後、新設の第3内科に入局。主として神経内科臨床を研修。時の教授から、脳血管障害の臨床と研究を、血液学の視点からやるようにと勧められ、凝固学の臨床研究を開始(1人で)。その過程で血小板による凝固カスケードの増幅機構に興味をわき、渡米。逆に血管内皮細胞による制御機構の研究を開始。血管内皮細胞上の凝固制御蛋白に出会う。そして純化精製、構造と機能の解明。帰国後、遺伝子クローニング、遺伝子組み換え体の創薬化に成功(商品名:リコモジュリン)。途中、クロー・深瀬症候群のVEGF説、DAMPsとしてのHMGB1、ヒストンなどの発見や測定法、分指標的療法の考案・提唱。現在、内因性インフラマソーム制御因子を発見し、創薬化に励んでいる。

世話人(敬称略・施設氏名五十音順)

代表世話人

千葉大学 細胞治療内科学

横手幸太郎

千葉大学 代謝生理学

三木 隆司

世話人

千葉市立青葉病院

山本 恭平

千葉大学 血液内科

中世古知昭

千葉大学 細胞治療内科学

竹本 稔

千葉大学 細胞治療内科学

田中 知明

千葉東病院

西村 元伸

千葉ろうさい病院

三村 正裕

東京女子医科大学八千代医療センター

橋本 尚武

東京都健康長寿医療センター

森 聖二郎

東邦大学医療センター佐倉病院

龍野 一郎

成田赤十字病院

青墳 信之

事務局

千葉大学 細胞治療内科学

小林 一貴